

## 様式第4号（第7条関係）

令和6年2月22日

東かがわ市議会議長

渡邊 堅次 様



東かがわ市議会議員  
(会派  個人  その他)  
氏名 淀 紀清 

## 行政視察等報告書

1	日 時	令和6年1月24日 から 令和6年1月25日	
2	参加者	淀 紀清	
3	研修目的等	内容	研修場所
		土曜学校について	東京都武藏野市
		中高生世代ワークショップ 「Teens ムサカツ」について	同上
		岩倉市市議会サポート制度について	愛知県岩倉市
		社内託児システム構築について	愛知県名古屋市 (有)スター・ネスジャパン
4	研修・調査 内容	別紙に記載	
5	研修成果	別紙に記載	
6	費 用	57,180 円	

※領収書（交通費・宿泊費の明細が分かるもの）、研修資料を添付してください。

# 視察研修報告書

東京都武蔵野市

土曜学校について

東京都武蔵野市

中高生世代ワークショップ

愛知県岩倉市

市議会サポーター制度について

愛知県名古屋市(有)スター・ネス・ジャパン

社内託児システム構築について

令和6年1月24日～令和6年1月25日

東かがわ市議会議員 淀紀清

## 東京都武蔵野市 土曜学校について

日程 令和6年1月24日(水)

視察先 武蔵野市役所

### 【研修のねらい】

本市の土曜日授業は2011年開始。教育の大綱の中にも「土曜日授業の充実」「放課後、土曜日、日曜日、長期休業中の教育活動 の充実（放課後児童クラブ、わくわくチャレンジ 教室、少年少女発明クラブ等）」とある。他市の取組も把握し本市との違いを見比べていくことをねらいとし視察を行った。

### 【概要】

#### ・土曜学校実施の経緯と現状

#### ◆試行実施

①平成14年の完全学校週5日制の移行に向け、平成12年に生涯学習課(当時)にプロジェクトチーム「武蔵野市完全学校週5日制実施施策研究会」を設置。市立小学校5年生と市立中学校1年生の児童・生徒とその保護者のニーズを把握し、平成13年度から「土曜学校」を試行。

②平成13年度は体験学習に重きを置き、「朗読・ことばあそびクラブ」「世界を知る会」「森林体験教室」「ピタゴラスクラブ」「五大学子ども講座」を試行し、「むさしのはやしチビッコ教室」も土曜学校として実施。

#### ◆本格実施

①平成14年度には「身体・言語・自然」をキーワードにプログラムを見直し、本格実施へ。

②完全学校週5日制に伴う学習指導要領の改訂により学校の授業で行わなくなつた体験的学習を、教員や市民、武蔵野地域五大学の教育力を活かして実施する意図。

※平成13年度の試行プログラムに加えて、「雅楽クラブ」「成蹊大学ロボット教室」「日本獣医畜産大学アニマルファーム体験クラブ」「武蔵野女子大学手作り大好き隊」「亜細亜大学セパタクロ一体験教室」「東京女子大学フィールドホッケートラブ」の11プログラムを開催。

## ◆プログラムの見直しと検討

- ・「子供たちの土曜日の居場所づくり」の要素が強かったため、連続10回を超えるプログラムも少なくなかった。
- ・20年の間に土曜日の過ごし方に変化があり、授業のあり方を変更。(連続参加できる子どもが激減した為。単発授業でも楽しめるように変更)
- ・授業では取り組みにくいような内容を重視する「体験型」の実施継続。
- ・興味や選択肢を広げるため「知ってもらう」位置づけで単発の授業内容を複数回実施し様々な体験ができると良い。
- ・保護者の興味も大切。
- ・子どもたちの自己肯定感を高められる講座、「好きを極められる」ような講座が良い。

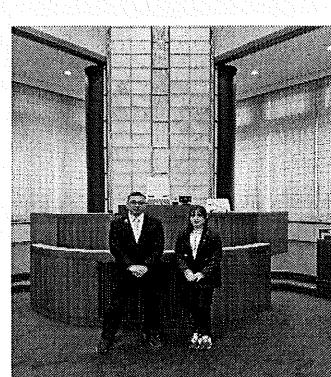
## ◆議論のポイント

- ・中学生へのアプローチ。
- ・土曜学校の講座のラインナップとバランス。

## ◆課題

- ・指導者の高齢化、指導者のなり手不足。
- ・学校教員の働き方、どのように今後運営していくか。
- ・自由度の拡大。
- ・児童や保護者が多彩な土曜学校の中から自分に合うスタイルを見つけられるように土曜学校事業における教育委員会と指定管理者の差別化を図る。

【研修の様子】



## 【質問】

質　問	
武藏野市「土曜学校について」	
1 懸念時間の確保のため土曜日授業を取り入れる自治体が多いが、体験を中心とした形式を採用したのはなぜですか	説明資料に記載のとおりです。
2 ホームページに書かれた教室以外にこれまで取り組んできた教室はありますか	
3 特に入気のプログラム（講座）はなんですか？ 目にこんな課題を抱いて欲しいなどの要望は出ていますか	講習の研究や実験のプログラムが人気です。代表的なプログラムとして「サイエンスクラブ」というプログラムがあります。全国で胡桃の実を収穫する「サイエンスフェスティバル」も実施しています。土曜学校ではありませんが、夏休み親子教室「科学教室サイエンス」実施年、低学年も大変人気です。講座の要望については、各教室でアンケート調査を実施していますが、「例え」「問題」「アーティスト」「ワーク」「体験」「くじ引き」「発表会」「講演会」「ワークやPPTのなかや、プログラムについてのもの、相手のための選択肢の選択など」
4 保護者や子どもたちからの感想はどんなものがありますか また講師の感想は	印象によってまちまちですが、「例え」「問題」「アーティスト」「ワーク」「体験」「くじ引き」「発表会」「講演会」「ワークやPPTのなかや、プログラムについてのもの」のどれかが印象的でした。保護者「市内の駒込駅前のカブクシア(駒込館)、体育館等)、プログラミングやタイピング教室、社会見学、お店の体験、理科系の講座など
5 学校や教諭との連携はどのようなものがありますか	事務の募集告知の為、チラシの配布を行っていましたが、また、今後の教員には「ピタゴラスクラブ」の講師、サイエンスクラブでは既に学校の教員とともに、市内小学校の現科指導員に講義指導のご協力をいただいています。

F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11	F12	合計
<b>6 事業に対する了解について</b>												
教育委員会で実施する直営予算については、120万程度です。武蔵野プレイスへの支払料は160万程度となります。												
中学生：「野球体験」のカリキュラムに合わせキャリア教育の一環として東原に金融機関で勤務する社員から金融機関の役割や経済の仕組みについて学習する。日本证券投资会員普及推進部職員、グループワークで会社を経営する体験をしながら、楽しく株式会社の仕組みを学び、(1)班で協力して、魅力的な新商品を考案したり、会社の仕事を体験。(2)新商品の魅力をプレゼンテーションで、株式会社による資金調達の仕組みを理解する。												
おかれの教室についてどのような目標を掲げてカリキュラムを提供していますか？ 小中学生と講師が別れていますが、それぞれ気をつけていることは												
金融機関の社員、市立学校の教員：大学校舎、俳優、声優など												
例年どの部門の資金なり、運営上の支障はありますか？お願いしている内容は、交付する事業運営の協助で、現時点では特に問題はありません。												
土曜学校プログラムとしての高校との連携は現在ありませんが、前記のサイエンスフェスティバルにおいては、実験ブースとして高校の文化部に出席をしていただいている。												
土曜学校を止めての授業運営のニーズは、特に寄せられていません。												
説明資料に記載のとおりです。												

## 【まとめ】

本市の土曜日授業は文化的なものが多いイメージであったが、武藏野市でも文化的な授業が多かった。体験型から極めていくサポートまであれば子どもたちの将来の夢につながったり、今後の興味や関心につながっていくのではないかと考えた。講座のまるごとナビという冊子を拝見し、たくさんの講座が受けられて子どもたちの選択肢も広がりいい刺激になる。広報誌にも力を入れている印象であった。

新しい事業や取組を行い、本市の土曜日授業が子どもたちにとっていい機会になるように今後もしっかり学び、提案して行きたい。

# **東京都武蔵野市 中高生世代ワークショップ「Teensムサカツ」について**

日程 令和6年1月24日(水)  
視察先 武蔵野市役所

## **【研修のねらい】**

本市においても、子どもたちが市長や教育長と意見交換をしている事業を実施している。多様な意見や考えを市政に反映することができる。

ワークショップを実施することで、若いうちから自分の住んでいるまちについて考えるきっかけとなり、関心度の向上につながると考え視察を行った。

## **【概要】**

◆ 「Teensムサカツ」とは…  
→中高生世代が武蔵野市を語ってつながる。

平成29年—30年度

第五次子どもプラン武蔵野の策定に当事者である子どもの意見を反映する場として「中高生世代広場」を実施。

当時15名ほど

令和元年

ワークショップ中止。

令和2年度

募集規模を拡大し、より多くの中高生世代が自分たちの未来に関わる事業について語り合い、参加者同士がつながる場としてワークショップ「Teensムサカツ」を実施。

当時のテーマ→中高生の居場所、地域とのつながり、環境にやさしいまち

令和3年—4年度

「子どもの権利に関する条例」について、中高生世代の意見や声を聞く場として実施。

・令和3年度

実行委員：15名、参加者27名

実行委員会：6回、本番1回

・令和4年度

実行委員34名、参加者43名

実行委員会6回、本番1回

## ○職員側の工夫

- ・若手職員によるワーキングチーム

部署を超えて、ムサカツに関わってくれる若手職員を募集しワーキングチームを結成。

- ・歳が近く交流しやすい、意見を発言しやすいなどの声があった。

## ○参加しやすい仕掛け

- ・実行委員会と本番の参加記念品として「図書カード」「参加証明書」を用意。
- ・市立中学のほか市内の私立・都立中学、高校にもチラシの配付を協力依頼。

→実行委員、本番の参加者が年々増加。

- ・令和3年度は各グループバラバラでのグループワークを試みたが、グループワークに苦戦。令和4年度には歳の近い人同士で構成。アンケートでは好評であったとのこと。

## ○中高生世代との役割分担

- ・中高生世代(実行委員)→企画提案 市→調整・準備 ▶実現。
- ・中高生世代と市が一緒にムサカツをつくりあげるという意識がうまれた。

## 【質問】

質問	回答
1 teensムサカツが開催されたきっかけは何でしたか。	中高生世代の意見を市役所に反映する場であると同時に、学校外で地域の多様なとのつながりを持つことなどを目的として、平成29・30年度に貢献である「中高生世代広場」事業が実施されました。令和2年度から(令和3年度は中止)は、算数授業を最大化し、より多くの中高生が、自分たちの未来に関わる事業について語り合い、参加者同士つながる場として中高生世代ワーキング「teensムサカツ」を実施しております。
2 teensムサカツ開催までの課題や気を付けた対応はありましたか。	・中高生世代の意見を引き出すためには、自分がとして理解しやすいように、日常の生活に置き換えて考えられるよう、小出しの言葉なども使うように工夫しました。 ・円滑にグループワークを進めるように、まずは、各グループにファシリテーターをいました。 例・年度ごとに市の実習職員を中心に行なう「アーティグダム」を設置 師年度(要注目事業者が大学生ファシリテーターを募集)
3 実行委員の募集で、累計何名くらいの方が集まりましたか。また、応募して3名まで内訳について教えてください。	参加者について、詳細は別紙のとおりです。
4 実行委員会に参加してもらう中高生への募集方法及び集まり具合について教えてください。	・市立中学校、私学等中高をはじめ、市内に店舗を有する者等。 ・図書カードと参加者証明書を参加記念品としており、初めての参加者も興味をもってもらえるように工夫しています。
5 毎年のテーマはどのように決定していますか。	頻度、市の特徴課題などに応じて、テーマを設定しています。 例(令和3年度)：中高生の居場所、地域とのつながり、環境にやさしいまち NS：子どもたちの権利に関する条例 NS：子どもの居場所
6 武蔵野市子どもの権利条例との関係性はどのようなものがありますか。	・子どもの権利条約第17条に基づき、子どもが自身の思いや意見を表明し、両世代とともに市に提言する機会として、事業を実施しています。 (参考) 武蔵野市子どもの権利条例(例) 第17条 4 市民および有志等が指揮の関係者は、子どもが意見を表明しやすい環境の整備に努めます。
7 2023年度より運営がNPO法人となっていますがその理由は何でしょうか。	本事業を運営する事業者はプロポーショナル方式で運営しました。その後に、運営する実行委員会が、その間に、重視した視点として、市役所に関する子どもからの意見収集より効果的にを行い、かつ、より生徒の子どもが参加を促すためには、ワーキング「teensムサカツ」の計画及び実施について、中高生世代が運営しながらより監督には専門的知見を有することが必要であると考え、子どもの居場所を中心に運営するNPO法人等を候補に選択しました。
8 実行委員以外に参加者を育っていますか。	令和3～4年度の参加者の意見をもとに、武蔵野市子どもの権利条例の前文「子どもたることは」がつくられました。
9 これまでのテーマが市議や議員の一般質問などに活かされた事例はありますか。	・基本的に、各テーマに対する参加者の意見は、個人が持たれないような形で公開しています。 ・グループワークを実施する際に「自分の得たくないテーマ内容については、隠さなくても良い」と話を前に説明するように留意しています。
10 状況や課題に見らざたくない印象もいるかもしれません。どういう対策をされていますか。	・ワークショップ本番(「teensムサカツ2.0.2.0版」)参加者アンケート結果で「2回目開催などなどないですか」という意見が見えて、少しずつ開催回数を多くしていく方針を取っています。 また、「想像も參じないか」については、28パーセントの人(「わからない」と回答している人が)次も来てもらおうの手段やアクションは行ないます。
11 ワークショップ本番(「teensムサカツ2.0.2.0版」)開催する際の担当者について、誰が取り扱っているのかお聞かせください。	外音 大人が入らない。

## 【まとめ】

職員は参加するが、議員や外部の大人は入室できないようなシステムになつているとのことで、中高生がのびのびと発言できる場を作る環境ができていると感じた。アンケートなども匿名で行うことができ相談しづらいことも声を上げることができるように工夫がされていた。

自分の暮らすまちについて、自分たちの居場所についてたくさんの意見が飛び交うことは子どもたちにとってもいい刺激になると考える。また定住や未来につながると思う。本市でも学校や学年、性別の垣根を越えて意見し合える場を作る必要があると考える。

# 愛知県岩倉市 岩倉市議会サポーター制度について

日程 令和6年1月25日(木)

視察先 岩倉市役所

## 【研修のねらい】

市議会におけるサポーター制度がどのように運営されているのか、地域との連携はどのように行っているのかを把握したいと考え視察を行った。

## 【概要】

サポーター制度とは…

議会の運営に対する市民からの要望・提言・その他意見を広く聴取し、議会運営に反映させ議会の民主的な運営を推進する。

### ◆サポーターの募集方法

無作為抽選にて案内状を出すことと、公募の2つである。当初は若手議員からの提案で導入の検討が始まった。

人数：100名以内 、任期は1年。再任可

### ◆職務

(1)岩倉市役所内で開催する同市議会の本会議、常任委員会を都合に合わせて傍聴してもらい、気づいた点や意見を提出。

(2)市議会議員との意見交換会に出席してもらい、意見や感想を述べる。

(3)議長が依頼したアンケート等に回答。

### ◆謝礼

任期の1年間を継続していただいた方に、謝礼として3,000円相当のクオカードを贈呈。

### ◆その他

○市民からの意見などは議会推進協議会でどの委員会が回答するか協議し振り分ける。行政への質問は執行部が回答。

○動員については個々の議員の支援者を動員はしない。

○商工会やPTAなどの会合にも傍聴として参加できる。

○zoomを活用しオンラインでの話し合いの場も作っている。

## 【質問】

### ○事業予算の概要について

3,000円分のクオカード、案内を出す際の郵送料。（初期の頃は折込から発送作業まで議員が行っていた）

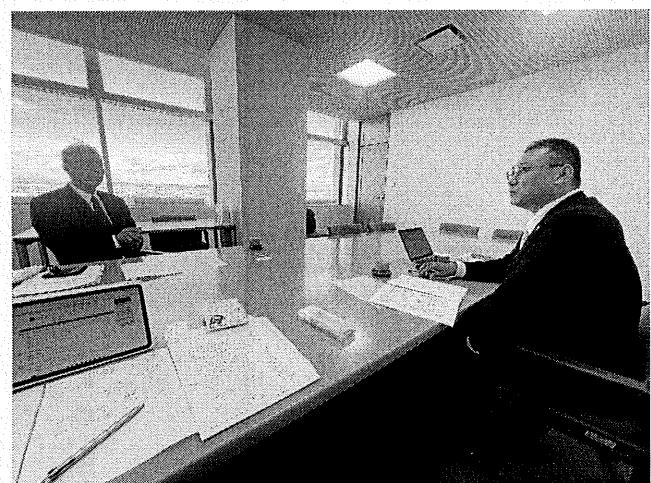
### ○今後何人まで増やしたいか

20人程度が対応の限界。これ以上は意図的に増やす思いはない。

### ○クレーム的な意見の対応

想定していたが、関心を持ってくれていると発想の転換をし対応する。方向が進まない場合にはサポートー同士で話し合いをしてことで大きな揉め事はなく、上手くいっていると感じた。

## 【研修の様子】



## 【まとめ】

サポートー制度導入の背景には、地元の方々と議会は身近な存在であって欲しいとの気持ちが伝わってきた。議会に関心を持ってもらうために、広報誌などでもアピールをしており、周知活動も大切であると考える。今後自分自身も広報公聴委員会に属するときには、市民の皆様に議会のあり方と一緒に考えて貰えるような広報誌にするなど、議会運営に新たな刺激を加えていきたい。

サポートー制度の取組は市政の活性化につながると言う印象を受けた視察であった。

# (有) スターネスジャパン 社内託児システム構築について

日程 令和6年1月25日(木)

視察先 有限会社スターネスジャパン (STERNNES JAPAN)

〒464-0853 愛知県名古屋市千種区小松町6-18

代表取締役 安達 大祐

## 【研修のねらい】

女性の子育てと仕事の両立は難しい。実際に働きながら子育てしている従業員の皆さんと意見交換をし、今後の働き方や子育ての環境作りの参考にしたいと考え視察を行った。

## 【会社】

◆設立年月日 平成17年（2005年）7月20日

### ◆事業内容

通信機器の販売、取付

電気通信サービスの利用契約などの取次に関する業務

電機通信設備に関するコンサルティング業務（電話設備設計）

ネットワーク設計 通信設備設計 中古通信機器輸出業

### ◆従業員数

15名（社員5名、アルバイト10名/2023年5月現在）

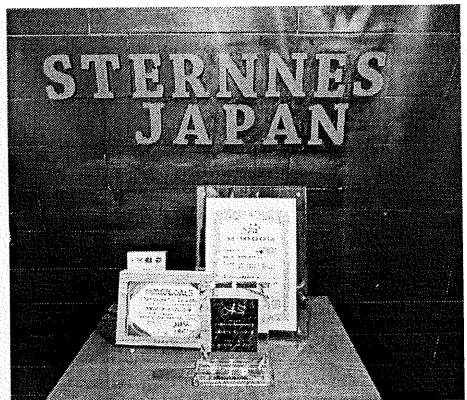
## 【取組】

- ・24時間勤務時間を選べるフレックスタイム制度。
- ・勤怠管理、コミュニケーション、会議の完全オンライン化。
- ・業務と子育てをシェアする社内託児所の設置。

## 【キャリアアップ、スキルアップ支援】

- ・女性職人育成のための社内技術、研修を実施。
- ・「働きやすさ」と「働きがい」の定期的な測定と社長面談の実施。
- ・外部講師による「子育てが学べる研修」の実施。
- ・保育士免許取得のサポート。

## 【研修の様子】



## 【まとめ】

お母さん方が交代で子どもの面倒をみて託児をシェアしているようなイメージだった。働きながら子育てはなかなか難しい印象であった。学びそして働き続ける女性のみなさんは本当に生き生きとしていた。子育ての悩みなども従業員同士で共有したり、それがコミュニケーションになっていたり、安心して働くことができたり、安心して子育てができる環境がここにはあった。東かがわ市にもたくさんの産業がある。このシステムを導入し働きながらも子育てができる環境作りを東かがわ市でも広めていきたいと感じた。子どもたちとコミュニケーションをとりながら従業員の皆様との意見交換の時間がとても有意義であった。